

中国山西省 税関の合理化と市場開拓で果実輸出を拡大

[FreshPlaza 2025年1月15日](#)

山西省は、税関業務の合理化と新しい市場の開拓で78カ国への果実輸出を拡大

中国北部の山西省は、米国、オーストラリア、ロシア等主要市場を含む78の国と地域への到達を達成した。太原税関は、同省が73品目の果実を輸出し、この地域にとって重要な成果を示したことを強調した。同省は、2024年の生鮮果実の輸出が9.3%増の合計16万7,500トンであったと報告した。特に、今年はロシアとアラブ首長国連邦に生鮮アンズ、バーレーンに冬ナツメ、ソマリアにリンゴを初めて出荷した。

中国の春節に至るまでの期間に、果実の輸出が急増した。通関手続きを効率化するため、太原税関は雲南省の税関と提携して新たな検査モデルを導入し、タイへの果実輸出を促進した。この取り組みにより、通関時間が60%短縮され、タイへの果実輸出が468%増加した。山西省永済市の青果物会社の経営者である范国強氏は、「税関の支援により、果実は陸路でわずか6日でタイ市場に到着できるようになった。海路で13日かかるのに比べて、鮮度がかなり良くなった」と述べた。

山西省の南西部に位置する運城市は、有名な果樹産地である。16万4,700ヘクタールの果樹園と年間600万トンの生産量を誇る同市は、肥沃な黄土と最適な緯度の恩恵を受けている。「运城リンゴ」は、中国農業ブランドセンターの最近のレポートで9億5,600万米ドル相当と評価され、大きなブランド価値を確立した。

出典: [Ecns](#)

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

アジア域内コンテナ指数は6%下落するも前年同期比では56%の上昇

[FreshPlaza 2025年1月16日](#)

ドリューリー社のアジア域内コンテナ指数(IACI)は、地域のスポットコンテナ運賃の加重平均であり、2025年1月15日までの2週間で6%下落し、40フィートコンテナ当たり828米ドルとなった。

一方、IACIは前年同期比で56%上昇しており、アジア域内貿易が引き続き好調であることを示している。運賃は今後若干低下するものの、今後数週間は安定した範囲内にとどまると予想される。

ドリューリー社のアジア域内コンテナ指数(IACI)は、アジア域内の主要な貿易ルートのスポットコンテナ運賃を提供しており、地域の海運の市場動向をより明確に示している。この指数は隔週で更新され、個々の航路を示す18のルート固有の指数と、複合指数から成っている。運賃には発地及び着地のターミナル取扱手数料は含まれておらず、すべての運賃は40フィートコンテナ当たりの米ドルで報告される。

この指数は、上海と主要な貿易ハブ(釜山(韓国)、ホーチミン(ベトナム)、ジャカルタ(インドネシア)、ジャワハルラールネルー港(インド)、高雄(台湾)、レムチャバン(タイ)、マニラ(フィリピン)、シンガポール、タンジュンペレパス(マレーシア)、横浜等)との間のルートをはじめとするアジアの主要港間の運賃を追跡している。また、これらの場所から上海に戻る復路や、上海からジェバルアリ(ドバイ)への接続もカバーしている。

ドリューリー社のこの新しい指数は、アジア域内の変動する運賃動向に透明性と洞察を与え、企業や海運業者による情報に基いた意思決定の支援を目的としている。このデータはリアルタイムの市場変動を反映しており、海運・物流業界の関係者にとって重要な参考値を提供する。

出典: [www.drewry.co.uk](#)

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)